2015 年 12 月 21 日

報道関係各位

持田製薬株式会社

# 軟骨修復治療材の治験開始に関するお知らせ

持田製薬株式会社（本社：東京都新宿区、社長：持田 直幸、以下「持田製薬」）は、国立大学法人北海道大学（代表研究者：北海道大学大学院医学研究科機能再生医学講座整形外科学分野教授　岩崎 倫政）との共同研究の成果として生まれた軟骨修復治療材（開発コード：dMD-001）について、このたび性能および安全性を探索的に検討する治験を開始しますのでお知らせいたします。

dMD-001 は、再生医療分野でも応用が検討されているアルギン酸ナトリウムを主成分とする生体組織の修復治療材です。当社は北海道大学と共同で、アルギン酸ナトリウムを関節軟骨損傷治療用の材料として利用する可能性を追求してきました。その研究成果が評価され、2014 年 7 月には国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の産学共同実用化開発事業（NexTEP）に採択されております。以降、当社は実用化および製品化への研究開発に取り組んでまいりました。

今後は国内の医療機関において治験を実施し、dMD-001 を医療機器として製造販売承認を取得することを目指して取り組んでまいります。なお、医療用素材として高品質が要求される高純度アルギン酸ナトリウムは、医薬品向け原薬の供給実績をもつアルギン酸専業メーカーである株式会社キミカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：笠原 文善）から供給されます。

本件による当社の連結業績への影響は軽微であります。

以上

【参考】

産学共同実用化開発事業（NexTEP）とは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が、大学などの研究成果に基づくシーズを用いて、開発リスクが高く規模の大きい開発を支援し、実用化を目指す技術移転支援事業です。

〈お問い合わせ先〉
持田製薬株式会社　経営企画部　広報室
東京都新宿区四谷１－７　　ＴＥＬ．０３－３２２５－６３０３
ＦＡＸ．０３－３２２５－６３１５
E-mail　webmaster@mochida.co.jp